

5 論文・学会への発表

(1) 論文等発表一覧

①原著論文・総説

論 文 名	執 筆 者	掲 載 誌	抄録掲載頁
Polychlorinated Biphenyl Concentrations and Estimated Intakes in Fish Oil Supplements on the Japanese Market	Tian-qi Zhang*, Tamaki Sato, Kazuhiro Tobiishi, Tsuguhide Hori (他3名) * 国立医薬品食品衛生研究所	Journal of Food Protection, 87, 100235, 2024.	P50
ポリカーボネート製器具・容器包装の溶出試験における改良ビスフェノール A 分析法の室間共同実験	片岡洋平*, 六鹿元雄*, 佐藤 環 (他27名) * 国立医薬品食品衛生研究所	食品衛生学雑誌, 64(4), 154-160, 2023.	P50
Simultaneous determination of hexabromocyclododecanes, polybrominated diphenyl ethers, and dechlorane-related compounds in boxed sushi meals using a developed analytical method	Tamaki Sato, Kazuhiro Tobiishi, Tsuguhide Hori (他3名)	Food Science and Technology Research, 29 (4), 347-356, 2023.	P50
中食に含まれる農薬・動物用医薬品の実態調査	小木曾俊孝、佐藤 環	福岡県保健環境研究所年報, 50, 69-74, 2023.	P50
同居家族条件によって認定された油症患者の血液中ダイオキシン類濃度と傾向	堀就英、飛石和大、安武大輔、新谷依子、古谷貴志、高尾佳子、香月進 (他3名)	福岡医学雑誌, 114 (1), 10-16, 2023.	P52
Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network	Machiko Otani ^{*1,*2} , Teiichiro Shiino ^{*1,*3} , Asako Nakamura (他35名) ^{*1} National Institute of Infectious Diseases, ^{*2} University of Tokyo, ^{*3} National Center for Global Health and Medicine	Journal of the International AIDS Society 2023, 26:e26086.	P52
Analysis of factors related to variation in dissolution profiles estimated from continuously conducted dissolution tests of generic products	Tokio Morita*, Hiroyuki Yoshida*, Yoriko Shintani (他14名) * 国立医薬品食品衛生研究所	Chem. Pharm. Bull. 72, 28-35 (2024)	P52
<i>Nagisavelia hikarui</i> , a new genus and species of Mesoveliinae (Hemiptera: Heteroptera: Mesoveliidae) inhabiting shingle beaches in Japan	Kohei Watanabe ^{*1} , Jun Nakajima, Masakazu Hayashi ^{*2} ^{*1} 石川県ふれあい昆虫館 ^{*2} ホシザキグリーン財団	Zootaxa, 5353, 468-478, 2023.	P52
福岡県での大気シミュレーション活用事例と今後の展望	山村由貴, 廣瀬智陽子	全国環境研会誌, 48(4), 148-153, 2023.	P53
顕著な藻類の増殖が観測される河川の水質に関する一考察	秦弘一郎, 柏原学*, 古賀智子, 古賀敬興, 平川周作, 志水信弘, 石橋融子 * 福岡県リサイクル総合研究事業化センター	水環境学会誌, 47(2), 75-83, (2024).	P53

論 文 名	執 筆 者	掲 載 誌	抄録掲載頁
球磨川におけるサツマキバナガミズギワ ゴミムシの初採集記録とその生息環境	平田 渉 ^{*1} , 中島 淳, 小山彰彦 ^{*2} , 乾 隆帝 ^{*1} ^{*1} 福岡工業大学 ^{*2} 九州大学	伊豆沼・内沼究報告, 17, 17-22, 2023.	P53
長崎県から 100 年ぶりに再発見された スナヤツメ南方種の記録	松井彰子 ^{*1} , 乾 隆帝 ^{*2} , 深川元太郎 ^{*3} , 中島 淳 ^{*1} 大阪市立自然史博物館 ^{*2} 福岡工業大学 ^{*3} (公社)長崎県食品衛生協会	Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 33, 27-32, 2023.	P53
Quantifying natural cross-ventilation flow of a two-layered model used for terraced houses in tropical zones by particle image velocimetry	NM Ali ^{*1} , MF Mohamad ^{*1} , W Wang ^{*2} , C Hirose, R Yoshie ^{*3} , N Ikegay ^{*2} ^{*1} Universiti Teknologi MARA, ^{*2} 東 京工芸大学, ^{*3} 九州大学	Building and Environment, 244, 110829, 2023.	P54
計 (原著論文・総説)	13 件		

②短報・レター

論 文 名	執 筆 者	掲 載 誌
福岡県におけるヒトアストロウイルス の包括的検出と流行状況の把握 (2018 ～2022年)	上田紗織 小林孝行 中村麻子 金 藤有里 芦塚由紀	IASR Vol. 45 p47-49: 2024年 3月号
計量テキスト分析を用いた井戸水等水 質検査相談内容 (2009－2022年度) のデ ータ分析	古賀智子	福岡県保健環境研究所年報, 50, 75- 78, 2023.
湖沼における環境DNA分析を用いた魚 類相調査の検討	平川周作, 中島 淳	福岡県保健環境研究所年報, 50, 79- 84, 2023.
紫外線吸収剤ベンゾフェノン-4 の分析 法開発及び環境調査	高橋浩司	福岡県保健環境研究所年報, 50, 85- 88, 2023.
2022 年度論文奨励賞 (廣瀬賞) 受賞	松木昌也	水環境学会誌, 46(9), 341, 2023.
福岡県におけるウミミズカメムシの初 記録	長野 光*, 中島 淳 * 九州大学	ニッチェ・ライフ, 11, 16, 2023.
沖縄島におけるヒョウモンドジョウの 野外における産卵行動の観察事例	仲宗根和哉*, 中島 淳 * 琉球大学	ニッチェ・ライフ, 11, 17-19, 2023.
福岡県におけるキボシチビコツブゲン ゴロウの追加記録	安部優美*, 中島 淳 * 古賀市役所	ニッチェ・ライフ, 11, 20-21, 2023.
奄美大島におけるシマエソハゼの初記 録	打和宏介 ^{*1} , 東田哲昌 ^{*2} , 東田侑大 ^{*2} , 中島 淳 ^{*1} 奄美海洋展示館 ^{*2} 奄美市	ニッチェ・ライフ, 11, 74-75, 2023.

鹿児島県におけるカエンツヤドロムシの初記録	猪野棕太*, 中島 淳 * 明石市	さやばねニューシリーズ, 51, 13, 2023.
キンセイランを福岡県に記録する	金光浩伸*1, 須田隆一, 金子洋平, 小柳智幸*2 *1 いであ株式会社 *2 福岡県環境部自然環境課	植物地理・分類研究, 71(2), 157-159, 2023.
計 (短報・レター)	11 件	

③著書

書 誌 名	執 筆 者	出版社, 発行年
自宅で湿地帯ビオトープ! 生物多様性を守る水辺づくり	中島 淳, 大童澄瞳* * 漫画家	大和書房, 2023.
計 (著書)	1 件	

(2) 発表論文抄録

1 Polychlorinated Biphenyl Concentrations and Estimated Intakes in Fish Oil Supplements on the Japanese Market

Tian-qi Zhang*, Tamaki Sato, Kazuhiro Tobiishi, Tsuguhide Hori (他3名)
Journal of Food Protection, 87, 100235, 2024.

ポリ塩化ビフェニル (PCB) は、環境中に広く存在する有機汚染物質であり209種類存在する。また、魚油を使用したサプリメントが健康補助食品として広く利用されているが、魚油のPCB汚染が懸念されている。そこで、国内で市販されている魚油サプリメント中の全209種のPCBsおよびNDL-PCBsの濃度を測定し、サプリメントを摂取するヒトのPCBs及びNDL-PCBs摂取量を推定した。国内で購入した37種類の魚油サプリメント中の総PCB濃度及びNDL-PCBs濃度はともに0.024-19 ng/gであった。総PCB摂取量及びNDL-PCBs摂取量は、いずれも0.00078-1.0ng/(kg体重/日)であった。PCBs総摂取量は、WHOが推奨する耐容1日摂取量20ng/(kg体重/日)を大幅に下回っていた。この結果から、魚油サプリメントの摂取によるヒトへの健康リスクは低いと考えられた。

* 国立医薬品食品衛生研究所

3 Simultaneous determination of hexabromocyclododecanes, polybrominated diphenyl ethers, and dechlorane-related compounds in boxed sushi meals using a developed analytical method

Tamaki Sato, Kazuhiro Tobiishi, Tsuguhide Hori (他3名)
Food Science and Technology Research, 29 (4), 347-356, 2023.

ヘキサブロモシクロドデカン (HBCDs)、ポリ臭化ジフェニルエーテル (PBDEs)、デクロランおよび関連化合物 (DRCs) のハロゲン系難燃剤

(HFRs) は、生物濃縮等により食品を汚染することが懸念されている。そこで、高速溶媒抽出とゲル浸透クロマトグラフィー精製を組み合わせた一斉分析法を用いてHFRs濃度を測定し、寿司弁当類中のHFRs摂取量を推定した。HFRsは、全ての魚介類部分から検出された。DRCsは魚介類以外の部分 (米飯等) から頻りに検出されたが、HBCDsとPBDEsはほとんど検出されなかった。また、推定した摂取量は、対応する有害性評価値をはるかに下回っていた。この結果から、寿司弁当類の摂取によるヒトへの健康リスクは低いと考えられた。

2 ポリカーボネート製器具・容器包装の溶出試験における改良ビスフェノールA分析法の室間共同実験

片岡洋平*, 六鹿元雄*, 佐藤 環 (他27名)
食品衛生学雑誌, 64(4), 154-160, 2023.

ポリカーボネート製器具・容器包装の溶出試験におけるビスフェノールA分析法の浸出用液がヘプタンである場合の改良分析法について24試験所が参加する室間共同実験を行った。濃度非明示で2濃度の試料を配付し、計画書にしたがい試料中の分析対象化合物 (ビスフェノールA、フェノールおよびp-tert-ブチルフェノール) 濃度を定量した。得られた試験所の分析結果を基に、国際的なハーモナイズドガイドラインに沿って統計的に解析した。共同実験の結果として推定された室間再現相対標準偏差

(RSDR) とHorwitz/Thompson式により計算される予測室間相対標準偏差 (PRSDR) からHorRat値を算出した。その結果、2試料のHorRat値は3化合物をとおして0.15~0.37となり、Codex委員会が分析法承認のために設定している性能規準の指標である2未満を満たした。したがって、本分析法は規格の判定を行う分析法として有用であると考えられた。

* 国立医薬品食品衛生研究所

4 中食に含まれる農薬・動物用医薬品の実態調査

小木曾俊孝, 佐藤 環
福岡県保健環境研究所年報, 50, 69-74, 2023.

本研究では近年利用が拡大している「中食」に着目し、農薬、動物用医薬品の残留状況を調査した。前処理においては、液体窒素又はドライアイスを使用して凍結粉碎し、均一な分析用試料を調製した。また、分析においてはGC-MS/MS及びLC-MS/MSを用いた一斉分析法により農薬442成分、動物用医薬品48成分について調査した。その結果、殺虫剤8成分、殺菌剤16成分、除草剤1成分、成長調整剤1成分、抗生物質1成分 (農薬として使用された可能性がある) が検出された。多くの中食から複数成分の農薬が検出されることが分かり、要因として様々な食材から作られていることが考えられた。検出された成分の対ADI比は0.0013-1.0%であり、ヒトの健康に影響を及ぼす可能性はあるとは考えられなかった。

5 Development of overlying water aeration system powered by sediment-microbial-fuel-cell for nutrient suppression

Masaya Matsuki, Shusaku Hirakawa

Water Science & Technology, 87(10): 2553-2563, 2023.

堆積物微生物燃料電池 (SMFCs) は、発電しながら栄養塩抑制などの底質改善を可能にする技術である。しかし、栄養塩抑制効果は電極近傍の狭い範囲に限られるという制限がある。そこで、SMFCの力で直上水を断続的に曝気するSMFC-曝気システムを開発し、SMFCの栄養塩抑制効果を高めた。直上水及び間隙水中の栄養塩濃度が減少することが観察された。これらの結果は、SMFC-曝気システムの相乗効果によってもたらされ、底質と直上水の両方の修復が可能であることを示す。私たちの知る限り、これはSMFCによるポンプの間欠動作、DOの増加、栄養塩抑制に関する最初の報告である。SMFC-曝気システムは、将来の閉鎖性水域における環境浄化方法として大きな可能性を秘めている。

7 ターゲットスクリーニング測定と生物応答試験による有害化学物質の複合影響評価の検討

古閑豊和

環境毒性学会誌, 27(S1), S93-S104, 2023.

化学物質の複合作用を評価する方法として、複数の化学物質を評価する混合物直接評価法がある。この方法では、毒性原因を特定するために化学物質の分析が重要となる。しかし、排水や河川水には数多くの化学物質が含まれており、従来の化学分析では毒性影響を与える有害化学物質を特定することは困難であった。そのため、多くの化学物質を検出できる網羅的な分析法が求められている。そこで化学分析における有機汚染物質の標的スクリーニング法に着目し、1000種類近い有機化合物を同定できるガスクロマトグラフ質量分析計 (GC-MS) による自動同定定量データベース法やLC/MS/MS法によるターゲットスクリーニングを導入し、迅速なスクリーニング法を開発した。さらに、ターゲットスクリーニングと生物応答試験を組み合わせた水試料への影響を評価したところ毒性原因の推定が容易になった。

6 窒素キャリアガスを用いた大気圧ガスクロマトグラフィータンデム質量分析法による水質汚濁に係る環境基準の付表6シマジン及びチオベンカルブの測定法検討

古閑豊和, 高橋浩司

環境化学, 33, 74-82, 2023.

窒素キャリアガスを用いた APGC/MS/MS で環境基準項目であるシマジンとチオベンカルブの測定法を検討した。前処理方法は公定法を一部改変し、固相抽出カートリッジの検討を実施した。その結果、検討した全ての固相抽出カートリッジで回収率の目標値 (70~120%) を満たしたが、充填剤に PLS3 を用いた測定データのばらつきが少なかったため、PLS3 を本法の固相抽出カートリッジとして選択した。本法の MDL と MQL は公共用水域の常時監視における環境基準値の報告下限値の10分の1以下であった。さらに添加回収試験の結果、用いた全ての河川水と海水で回収率の目標値 (70~120%) を満たし良好な結果となった。また、定量の問題となるようなピーク形状の異常や妨害ピークは確認されなかった。

8 福岡県内の河川マイクロプラスチック調査—土地利用及び水質分析の比較—

古賀智子, 藤川和浩, 板垣成泰, 古賀敬興, 鳥羽峰樹

全国環境研会誌, 48, 165-170, 2023.

福岡県内の河川において、季節ごとにマイクロプラスチック採取調査を2020年2月から2022年2月まで2年間実施した。調査は土地利用の異なる5河川で行い、水質汚濁項目やイオン類、重金属類などの水質分析も併せて実施した。その結果、同一地点でも個数密度の変動は非常に大きく、これは河川流量との関連が示唆された。また、土地利用の異なる河川間でマイクロプラスチックに特徴がみられ、個数密度と複数の水質項目との間に有意な相関が示された。

9 Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network.

Machiko Otani^{*1,*2}, Teiichiro Shiino^{*1,*3}, Asako Nakamura (他35名)

Journal of the International AIDS Society 2023, 26:e26086.

HIV診断の遅れは、世界的に大きな問題である。新規感染者が主に男性と性交渉を持つ若い男性である日本において、人口統計、臨床要因、分子伝播クラスタ属性と診断遅延の関連性を評価した。その結果、診断遅延と関連する変数は、年齢、異性間感染、東京以外、HCV共感染、分子伝播クラスタに属さない者であった。日本では高齢、異性間感染、東京以外の医療機関への通院等の人口統計学的要因に加え、HCVの同時感染、分子伝播クラスタに属さないことがHIVの診断遅延と関連していた。これらの結果は、一般住民を対象としたHIV検査を促す公衆衛生プログラムの必要性を示唆していた。

^{*1} National Institute of Infectious Diseases, ^{*2}

University of Tokyo, ^{*3} National Center for Global Health and Medicine

11 同居家族条件によって認定された油症患者の血液中ダイオキシン類濃度と傾向

堀就英、飛石和大、安武大輔、新谷依子、古谷貴志、高尾佳子、香月進（他3名）
福岡医学雑誌, 114 (1), 10-16, 2023.

2013年から2021年の油症検診で175名の同居家族条件による油症認定患者（同居家族認定者）から採取した血液中のダイオキシン類濃度（脂肪重量当たり）を決定した。代表的な同居家族認定者11名について血液中2,3,4,7,8-pentachlorodibenzofuran (PeCDF) 濃度の経年変化を見たところ、9年間で顕著な変化は認められなかった。同居家族認定者175名の血液中2,3,4,7,8-PeCDFの平均濃度は25 pg/gで、未認定者409名の平均値である12 pg/gよりも高値であった。同居家族認定者の約90%は50 pg/g未満の濃度であったが、油症診断基準で高い濃度とされる50 pg/gを14名が上回っていた。

10 Analysis of factors related to variation in dissolution profiles estimated from continuously conducted dissolution tests of generic products

Tokio Morita*, Hiroyuki Yoshida*, Yasuhiro Abe*, Koji Tomita, Akihiko Nakamura, Chikako Hada, Chiyori Nakai, Keishi Kina, Makoto Takahashi, Nozomi Uemura, Tetsuya Yoneda, Maki Yasui, Yoriko Shintani, Naomi Tomita, Aoi Inagaki*, Ken-ichi Izutsu*, Yoji Sato*

Chemical and Pharmaceutical Bulletin. 72, 28–35, 2024.

国内の公的試験機関で実施されたジェネリック医薬品127成分1675製剤の溶出試験結果を評価した。溶出挙動に差が認められたのは145製剤（8.7%）であり、その要因を分析した結果、難溶性成分の粒子径の変更等の製剤特性や、共同開発品であることが関連していた。製品の製造工程の変更により開発当初の溶出挙動から変化する可能性が示唆された。製品開発の初期段階から製造工程を適切に設計することがジェネリック医薬品の品質保証に重要である。

*国立医薬品食品衛生研究所

12 *Nagisavelia hikarui*, a new genus and species of Mesoveliinae (Hemiptera: Heteroptera: Mesoveliidae) inhabiting shingle beaches in Japan

Kohei Watanabe^{*1}, Jun Nakajima, Masakazu Hayashi^{*2}
Zootaxa, 5353, 468-478, 2023.

福岡県と島根県の海岸から特異なミズカメムシ科昆虫を発見し、新属・新種ナギサミズカメムシ *Nagisavelia hikarui* Watanabe, Nakajima & Hayashi sp. nov.として記載した。頭部や脚部、複眼の特徴から既知種との区別は容易である。あわせて日本から記録されているミズカメムシ科7種の同定のための検索表も新たに作成した。

*1 石川県ふれあい昆虫館

*2 ホシザキグリーン財団

13 球磨川におけるサツマキバナガミズギワゴミシの初採集記録とその生息環境

平田 渉^{*1}, 中島 淳, 小山彰彦^{*2}, 乾 隆帝^{*1}
伊豆沼・内沼研究報告, 17, 17-22, 2023.

これまで鹿児島県の1か所の生息地しか知られていなかったサツマキバナガミズギワゴミシの2か所の生息地を発見し記録を行った。これは熊本県からの初記録となる。また、両産地での生息環境において調査を行い、その環境構造の特徴を記録した。

*1 福岡工業大学

*2 九州大学

14 長崎県から 100 年ぶりに再発見されたスナヤツメ南方種の記録

松井彰子^{*1}, 乾 隆帝^{*2}, 深川元太郎^{*3}, 中島 淳
Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 33, 27-32, 2023.

長崎県西海市の河川からスナヤツメ類を採集した。形態と遺伝子の特徴を調べた結果、スナヤツメ南方種と同定された。これは長崎県内から約100年ぶりとなるスナヤツメ類の再発見であり、同時に南方種と同定された初の報告となる。現在の生息状況は安定していると思われるが、今後絶滅しないよう注意が必要である。

*1 大阪市立自然史博物館

*2 福岡工業大学

*3 (公社)長崎県食品衛生協会

15 福岡県での大気シミュレーション活用事例と今後の展望

山村由貴, 廣瀬智陽子
全国環境研会誌, 48(4), 148-153, 2023.

福岡県保健環境研究所では、2022年2月より、県独自の光化学オキシダント・PM2.5濃度予報を開始した。予報を開始した2022年2月15日から2023年8月31日までの予測値について、観測値と比較した結果、光化学オキシダントは決定係数が0.43～0.51、RMSEが14.5～15.4ppbであった。観測値が80ppbを超えたデータのうち、計算値の誤差が±20ppb以内であった割合は、北九州75%、福岡79%、筑後88%、筑豊82%であり、高濃度対応に資する精度を得られていると考えられた。一方、PM2.5は決定係数0.21～0.32であり、オキシダントに比べて精度は低かったが、越境汚染に伴い、観測値が70 μ g/m³を超える高濃度事例は、予測することができていた。

さらに、予報の応用として、2022年12月21日に発生した異臭事例においても、SO₂の予測結果を用いて、火山ガスが原因と推測することができた。

16 顕著な藻類の増殖が観測される河川の水質に関する一考察

秦弘一郎, 柏原学*, 古賀智子, 古賀敬興, 平川周作, 志水信弘, 石橋融子

* 福岡県リサイクル総合研究事業化センター
水環境学会誌, 47(2), 75-83, (2024).

湖沼や海域に比べて、河川における藻類増殖が引き起こす有機物量増加（内部生産）の理解は不十分である。そこで、河川の内部生産が水質に与える影響を明らかにすることを目的に、顕著な藻類増殖が見られる花宗川において、流況や藻類が分画される粒子状物質の元素組成に着目した検討を行った。その結果、河川において藻類が観測される場合を、pH及び溶存酸素飽和度によって増殖型と流入・混合型に分類することができた。また、花宗川の滞留区間では、元素組成比をから粒子状物質の多くを藻類が占めることが示唆された。このことから、生物化学的酸素要求量（BOD）のうち、粒子状物質に由来するBOD（P-BOD）を藻類に由来するBOD（BOD-Algae）とした。藻類量の指標としてクロロフィルa（Chl-a）を用いることで、式（ $[\text{BOD-Algae (mg L}^{-1})}] = 0.24 \times [\text{Chl-a (}\mu\text{g L}^{-1})]^{0.66}$ ）が得られた。得られた結果を用いることで、河川の内部生産がBODへ与える影響を定量的に把握することが可能であった。

17 Quantifying natural cross-ventilation flow of a two-layered model used for terraced houses in tropical zones by particle image velocimetry

NM Ali*1, MF Mohamad*1, W Wang*2, C Hirose, R Yoshie*3, N Ikegay*2

*1 Universiti Teknologi MARA, *2 東京工芸大学, *3 九州大学

Building and Environment, 244, 110829, 2023.

風力換気は、建物運用時のエネルギー消費量を削減すると共に、居室内の温熱快適性や空気質を向上させるサステナブルな換気手法である。一方、暑熱地域において代表的な住宅建築であるテラスハウスを想定した多層の換気建物模型を対象とする換気研究の前例は極めて少ない。そこで本研究では、マレーシアにおいて最も一般的な二階建てテラスハウスの室内気流性状を把握するため、これを模擬した二層の換気建物模型を用いた風洞実験を実施した。本研究にてPIV計測 (Particle Image Velocimetry; 粒子画像流速測定法) と熱線流速計により取得した実験データは、多層の建物での通風気流に関する高質なデータベースであると位置づけられ、対象模型における換気効率は、流入開口部の位置や流入風の風向に極めて大きい影響を受けることが確認された。

(3) 学会発表等一覧

① 国際学会

演 題 名	発 表 者	学会名 (場所), 年月日
Cooperative research on innovative monitoring technique of POPs and other priority pollutants	Toshitaka Kogiso, Yasutaka Horiuchi, Kazuhiro Tobiishi, (他 3 名) (他 3 機関)	The 23nd Korea-Japan GOM & Joint Symposium on POPs Research (Seoul, Republic of Korea), February, 21-22, 2024
計 (国際学会)	1 件	

② 国内学会 (全国)

演 題 名	発 表 者	学会名 (場所), 年月日
福岡県における classic、MLB、VA を含むアストロウイルスの検出状況について (2019 年～2022 年)	上田紗織、小林孝行、中村麻子、金藤有里、芦塚由紀	ウイルス性下痢症研究会 第34回学術集会 (仙台市), 令和 5 年 9 月 25 日
ショウガ茎葉部抽出液の抗ノロウイルス効果の評価	上田紗織、小林孝行、芦塚由紀、草野輝彦*1、有菌幸司*2 *1 瑞輝科学生物株式会社 *2 熊本大学	日本薬学会第 144 年会 (横浜市), 令和 6 年 3 月 28-31 日
九州地方におけるカルバペネマーゼ産生菌の薬剤耐性状況および保有薬剤耐性遺伝子に関する調査 (地区学会長賞受賞講演)	重村洋明、大石明*1、カール由起、片宗千春、上田紗織、江藤良樹、芦塚由紀 *1 がん感染症疾病対策課	第 41 回日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (神戸市), 令和 5 年 12 月 1-3 日
GIS を用いたがん受療動向把握の試み	中島淳一	日本がん登録協議会第 32 回学術集会 (青森市), 令和 5 年 6 月 8-10 日
虚血性心疾患・脳血管疾患入院患者の特定健診受診・外来受療行動と医療費の関連、	西巧、前田俊樹*1、松本晃太郎*2 *1 福岡大学医学部 *2 久留米大学バイオ統計センター	第 61 回日本医療・病院管理学会学術総会 (東京都新宿区), 2023 年 11 月 4-5 日
レセプトデータを用いた気象要因と建造環境が熱中症による受診に与える影響の評価	西巧、前田俊樹*1、今任拓也*2、松本晃太郎*3 *1 福岡大学医学部 *2 福岡大学薬学部 *3 久留米大学バイオ統計センター	第 94 回 日本衛生学会学術総会 (鹿児島市), 2024 年 3 月 9 日
UAV 空撮による平尾台広谷湿原の水文環境及び植生の把握	熊谷博史、須田隆一、伊豫岡宏樹*1 *1 福岡大学工学部	第 58 回日本水環境学会年会 (福岡市), 令和 4 年 3 月 6-8 日
食品中のリン酸エステル系難燃剤の一斉分析法の検討	佐藤環、飛石和大、堀就英 (他 1 名) (他 1 機関)	第 119 回日本食品衛生学会学術講演会 (東京都江戸川区)

演 題 名	発 表 者	学会名 (場所), 年月日
国内 HIV-1 伝播クラスター動向 (SPHNCS 分析) 年報—2022 年	椎野禎一郎 ^{*1,2} , 中村麻子 (他 6 名) ^{*1} 国立国際医療研究センター、 ^{*2} 国立感染症研究所 (他 3 機関)	第 37 日本エイズ学会学術集会・総会 (京都府、京都市/WEB ハイブリッド開催), 令和 5 年 12 月 3-5 日
2022 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向	菊地正 ^{*1} , 中村麻子 (他 45 名) ^{*1} 国立感染症研究所 (他 21 機関)	第 37 日本エイズ学会学術集会・総会 (京都府、京都市/WEB ハイブリッド開催), 令和 5 年 12 月 3-5 日
小児の原因不明急性肝炎症例における起因ウイルスの網羅的探索及び分子疫学解析	中村麻子、金藤有里、小林孝行、重村洋明、芦塚由紀、濱崎光宏、香月進、西田雅博、阿部育夢	第 70 回 日本ウイルス学会学術集会 (宮城県、仙台市), 令和 5 年 9 月 26-28 日
福岡県における火山に起因する大気汚染物質濃度の上昇について	山村由貴、山本重一、廣瀬智陽子	第 50 回 環境保全・公害防止研究発表会 (鳥取市), 令和 5 年 11 月 16-17 日
福岡県におけるシミュレーションによる大気汚染予測とその活用について	山村由貴、廣瀬智陽子	第 68 回全国大気汚染防止連絡協議会全国大会 (高知市)、令和 5 年 11 月 17 日
河川の内部生産に関する研究	秦弘一郎、柏原学 [*] , 古賀智子, 古賀敬興, 平川周作, 志水信弘, 石橋融子 [*] 福岡県リサイクル総合研究事業化センター	第 58 回日本水環境学会年会 (福岡市), 令和 6 年 3 月 6-8 日
血液中ダイオキシン濃度分析のクロスチェック (2022 年度)	古谷貴志, 新谷依子, 堀就英, 飛石和大, 香月進, 辻学	第 31 回環境化学討論会 (徳島市), 令和 5 年 5 月 29 日-6 月 2 日
福岡県におけるマダニからのJingmentick virusの検出	小林孝行, 芦塚由紀, 金藤有里, 吉富秀亮, 古谷貴志, 濱崎光宏, 田中義人, 香月進, 藤田龍介 ^{*1} ^{*1} 九州大学	第 72 回日本衛生動物学会南日本支部大会, 令和 5 年 10 月 28-29 日
日本水環境学会論文奨励賞受賞記念講演	松木昌也	第 43 回日本水環境学会通常総会 (東京), 令和 5 年 6 月 13 日
堆積物微生物燃料電池における多種イオンの挙動に関する研究	松木昌也, 平川周作	第 26 回日本水環境学会シンポジウム (大阪), 令和 5 年 9 月 20-21 日
微生物燃料電池の電力を高効率で利用する独立型ばっ気システム	松木昌也, 平川周作, 戸田治孝	第 58 回日本水環境学会年会 (福岡), 令和 6 年 3 月 6-8 日
福岡県内河川における魚類を対象とした季節別環境 DNA 分析	平川周作, 中島 淳	第 6 回環境 DNA 学会 (九州大会) (福岡) 令和 5 年 12 月 2-5 日
窒素キャリアガスを用いた APGC-MS/MS による水質汚濁に係る環境基準農薬の測定法検討	古閑豊和, 高橋浩司	第 30 回 2023 年度瀬戸内海研究フォーラム (山口), 令和 5 年 8 月 26-27 日

演 題 名	発 表 者	学会名 (場所), 年月日
AIQS-GCへの水素キャリアガスの適用 —装置性能評価の検証—	古閑豊和, 高橋浩司, 宮脇崇	第 58 回日本水環境学会年会(福岡), 令和 6 年 3 月 6-8 日
産業廃棄物最終処分場における 1,4-ジ オキサンの挙動に関する研究	藤川和浩, 古賀敬興, 中村和宏, 板垣 成泰, 石橋融子, 安武大輔	第 34 回 廃棄物資源循環学会 (大阪) 令和 5 年 9 月 11-13 日
九州本島で発見されたシノビドジョ ウの形態と遺伝子の特徴	中島 淳, 橋口康之* * 大阪医科薬科大学	2023 年度日本魚類学会年会(長崎市), 令和 5 年 9 月 1-4 日
人工湿地における鳥類目視観察調査 と環境 DNA メタバーコーディング分 析の比較	更谷有哉, 中島 淳, 平川周作, 石間 妙子, 服部卓郎*, 香月 進 * NPO 法人ふくおか湿地保全研究会	日本動物学会第 94 回大会 (山形市), 令和 5 年 9 月 7-9 日
アイランドシティはばたき公園の人工 湿地における環境 DNA メタバーコー ディング法に基づく鳥類調査手法 の検討	更谷有哉, 中島 淳, 平川周作, 石間 妙子, 服部卓郎*, 香月 進 * NPO 法人ふくおか湿地保全研究会	第 26 回自然系調査研究機関連絡会 議 (三田市), 令和 5 年 11 月 3 日
計(国内学会(全国))	26 件	

③ 国内学会(地方)

演 題 名	発 表 者	学会名(場所), 年月日
九州地方におけるカルバペネマーゼ 産生菌の薬剤耐性状況および保有薬 剤耐性遺伝子に関する調査	重村洋明、大石明*1、カール由起、片 宗千春、上田紗織、江藤良樹、 芦塚由紀 *1 がん感染症疾病対策課	日本獣医公衆衛生学会 (九州地区) (鹿児島市) 令和 5 年 9 月 10 日
福岡県における梅毒感染者の男女別 分析	市原祥子	第 70 回福岡県公衆衛生学会 (福岡市), 令和 5 年 5 月 16 日
SARS-CoV-2 の株は他の変異株より 家庭内で拡がりやすかったか?	市原祥子	令和 5 年度獣医学術九州地区学会 (鹿 児島市), 令和 5 年 9 月 10 日
Joinpoint Analysis を用いた福岡県に おけるがん死亡トレンドの解析	中島淳一	第 70 回福岡県公衆衛生学会 (福岡市), 令和 5 年 5 月 16 日
福岡県のがん死亡の概況	中島淳一	第 70 回福岡県公衆衛生学会 (福岡市), 令和 5 年 5 月 16 日
小児の原因不明急性肝炎検体におけ る次世代シーケンサーを用いた起 因ウイルスの網羅的探索	中村麻子、金藤有里、小林孝行、堀内 康孝、濱崎光宏、西田雅博、阿部育夢	第 70 回福岡県公衆衛生学会 (福岡市), 令和 5 年 5 月 16 日
福岡県保健所HIV検査陽性検体の解 析	中村麻子、金藤有里、小林孝行、堀内 康孝、上田紗織、吉富秀亮、芦塚由紀、 濱崎光宏	第 70 回福岡県公衆衛生学会 (福岡市), 令和 5 年 5 月 16 日

演 題 名	発 表 者	学会名(場所), 年月日
福岡県におけるアレルギー原因物質検査について(平成29年度～令和4年度)	重富敬太, 古谷貴志, 新谷依子, 佐藤環, 岡元冬樹, 堀就英	第49回九州衛生環境技術協議会(福岡市), 令和5年10月12日
超高解像度エアロゾル気候モデルの開発	富澤 慧, 佐藤陽祐*, 安井良輔**, 竹村俊彦*** *北海道大学 **気象研究所 ***九州大学	日本気象学会 第45回九州支部発表会(福岡市)、令和6年3月3日
福岡県における環境DNAを用いた魚類相調査事例	中島 淳, 平川周作	第49回九州衛生環境技術協議会(福岡市), 令和5年10月12日
計(国内学会(地方))	10 件	

(4) 報告書一覧

委託事業名	報 告 書 名	執 筆 者	発行年月
2022年度 公益財団法人 大同生命厚生事業団 地域保健福祉研究助成	集発が疑われたカルバペネマーゼ産生腸内細菌科細菌のプラスミド解析による評価	カール由起、重村洋明	令和6年3月
新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	令和4年度委託研究開発成果報告書	重村 洋明	令和6年3月
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	研究実績報告書	重村 洋明	令和6年3月
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	研究成果報告書	重村 洋明	令和6年3月
食品由来感染症の病原体解析の手法及び病原体情報の共有に関する研究	令和5年度分担研究報告書	芦塚由紀、濱崎光宏、重村洋明、上田紗織（他 14 名）	令和6年3月
食品由来感染症の病原体解析の手法及び病原体情報の共有に関する研究	令和3年~令和5年度総合研究報告書	濱崎光宏、芦塚由紀、カール由起、重村洋明、上田紗織（他 26 名）	令和6年3月
福岡県結核・感染症発生動向調査事業	福岡県結核・感染症発生動向調査事業資料集 令和5年（2023年）	田中義人、市原祥子、浦崎祐華、濱崎光宏、金藤有里、吉富秀亮、小林孝行、近藤典子、江藤良樹	令和6年3月
令和5年度厚生労働行政推進調査事業費食品の安全確保推進研究事業	食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究 令和5年度研究報告書	香月進、高尾佳子、熊谷博史	令和6年3月
令和5年度厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業）	食品用器具・容器包装等の衛生的な製造管理等の推進に資する研究 分担研究報告書 市販製品に残存する化学物質に関する研究 <その1> 合成樹脂製器具・容器包装に含有される非意図的添加物質の探索（4）、<その3> 総溶出物試験法の性能評価	藤原恒司*1、六鹿元雄*1、尾崎麻子*2、佐藤環（他 52 名） *1 国立医薬品食品衛生研究所 *2 （地独）大阪健康安全基盤研究所	令和6年3月
令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金	食品を介したダイオキシン類等有害物質摂取量の評価とその手法開発のための研究 （3）有害物質の摂取量推定に必要な分析法の開発に関する研究 （3-3）食品中のリン酸エステル系難燃剤の分析法の検討	堤 智昭*、佐藤 環、飛石和大、古閑豊和、堀 就英 * 国立医薬品食品衛生研究所	令和6年3月

委託事業名	報 告 書 名	執 筆 者	発行年月
令和5年度化学物質環境実態調査 初期・詳細環境調査（水質）	令和5年度化学物質環境実態調査 初期・詳細環境調査（水質）結果報告書	志水信弘，塚谷裕子，鳥羽峰樹， 小木曾俊孝，堀内康孝，古閑豊和， 中川修平，富澤慧（他2名）	令和6年3月
令和5年度化学物質環境実態調査 分析法開発調査	令和5年度化学物質環境実態調査 分析法開発調査結果報告書	志水信弘，塚谷裕子，鳥羽峰樹， 小木曾俊孝，堀内康孝，飛石和大（他2名）	令和6年3月
令和5年度POPs及び関連物質等に関する日韓共同研究業務	POPs及びその他優先化学物質の新規モニタリング手法に関する共同研究	小木曾俊孝，飛石和大（他3名）	令和6年3月
令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（食品の安全確保推進研究事業）	食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究 分担研究報告書 「油症検診受診者の血液中PCDF等（ダイオキシン類）濃度実態調査」	香月進，堀就英，飛石和大，中村麻子， 新谷依子，佐藤環，重富敬太， 古谷貴志，平川周作（他3名）	令和6年5月
環境改善調査研究成果報告書（令和5年度）	地方公共団体におけるシミュレーションモデルを活用した光化学オキシダント対策の検討に関する調査研究	山村由貴，山本重一，熊谷博史， 城山宗一郎，丸林啓太，菅田誠治* * 国立環境研究所	令和6年2月
公益財団法人柿原科学技術研究財団令和4年度研究助成	堆積物微生物燃料電池の電力を活用した底泥改善効果の向上	松木昌也	令和6年2月
計（報告書）	16 件		